

アゲハの観察 パート 5 ～ジャコウアゲハ～

千葉県流山市立流山小学校 6 年

西阪 蒼海

研究を始めた理由

四年間様々なアゲハチョウを調べましたが、それぞれ違った特徴がありました。その中で特に独特の特徴を持つジャコウアゲハは、他の蝶よりも謎が多いので、昨年よりも深く調べてみたいと思いました。

また、二年の間解決できなかったウマノスズクサの確保など、ジャコウアゲハの食草についても調べてみようと思いました。

研究の目的

- ① ウマノスズクサの成長と特徴について再度観察する。
- ② ジャコウアゲハの成虫のことについて詳しく調べる。
- ③ 姫路へ行き、さらにウマノスズクサとジャコウアゲハについて調べる。

研究の方法

目的の①②では、自生地に行き一年を通して観察する。成虫を調べるために計画していたミニバタフライガーデンを畑に作り、その中で幼虫を育て、羽化した成虫がどのような花を好むのか観察する。観察が終わったものから逃がして行く。バタフライガーデンの中には、花、ウマノスズクサを入れる。

目的の③では、昨年もお世話になった「ジャコウアゲハ連絡協議会」の方に案内して頂き、自生地を調べる。さらに姫路で取り組んでいる新しい取り組みのことも調べる。

研究の結果

1. 自生地調査

- ① ジャコウアゲハが育つ時期は、ウマノスズクサも青々と生え、越冬さなぎになる頃には枯れていた。また、越冬さなぎが羽化する前の四月上旬には芽吹いていた。卵から幼虫になる頃には青々とした立派なウマノスズクサになっていた。

2. バタフライガーデン

- ① 花によって蜜を吸った回数にかなり差があった。

- ② 花の形に好みはなかったが、色には好みがありオレンジ、ピンク、赤、紫の花の蜜を吸うことが多かった。
- ③ 蜜を吸う時、ゆっくり花にとまるのではなく、必ず羽を細かく動かしていた。
- ④ オスは蜜を吸う回数が少なかった。

3. 姫路

- ① 姫路での活動は、みんなが協力しあっているからできることだと、あらためて思った。

研究から分かったこと

自生地では、一年を通して調べることにより、ジャコウアゲハとウマノスズクサがおたがいに助け合っている関係だとわかった。

バタフライガーデンでは、やわらかい花や茎のものは蜜を吸いづらいことがわかった。

姫路では、新しくショッピングモールの屋上や駅など、いたるところにウマノスズクサを植える計画があることがわかった。

まとめ

今年は、ジャコウアゲハについて研究し、一番大変だったことが食草の確保と自生地の調査でした。毎日自生地に行くことができないので、一週間に一回の調査になりました。

昨年、成虫のことをもっと詳しく調べてみたいと思ったので、今年はミニバタフライガーデンを作りました。どのような花の蜜を好むのか調べたところ、色だけではなく蜜の吸いやすさでも選んでいて意外でした。また、調査している間に交尾の瞬間を見ることができたので、とても貴重な体験をすることができました。

姫路では、ショッピングモールの屋上にウマノスズクサを植えたり、植物園の端にスペースを作ったりしていて、街全体の協力ができないことだと思いました。姫路の人たちのジャコウアゲハに対する深い愛情が感じられました。

今年は、新しいことを調べましたが、さらに疑問が残ってしまいました。ジャコウアゲハがどのくらいの距離を飛ぶのか、家で放した蝶は観察していた三キロ先の畑まで飛ぶのかも研究してみたいと思います。



ミニバタフライガーデン
家から離れた畑に小さなバタフライ
ガーデンを作った。



さなぎマンション
自生地のさなぎを板にはった。



キュウリを食べた。
ジャコウアゲハは、ウマノスズクサ
以外のものも食べた。



交尾の瞬間
バタフライガーデン中で蝶が交尾
していた。

平成 28 年度 野依科学奨励賞 受賞作品概要
「アゲハの観察 パート 5 ～ジャコウアゲハ～」 西阪 蒼海